

低コスト農業で豊かな明日をめざす

「大総ライスセンター」が建設に向けスタート



豊かさへの挑戦

近代化されたコメ生産…それは共同の力で実現します。これまでのように個人作業で手間をかけては採算も取れず、過重労働などで後継者不足にも拍車がかかってしまっています。今や土地利用型農業、つまり生産基盤から生産・出荷体制の効率化を進めていく時代です。

当町では、昭和53年に新島ライスセンターが、平成2年には屋形ライスセンターが建設され、それぞれ省力化された稲作経営が行われています。大総地区でも、かねてからライスセンターの建設要望がありました。このほど、寺方地区に新たなシステムを導入した最新型のライスセンターが建設されることになり、来年度からの稼働をめざし11月7日に関係者のみなさんを集めて起工式が行われました。

建設の経緯

現在の日本の稲作農家は、米需要の低下とともに生産調整面

積の拡大、米価格の引下げ等大変厳しい状況にあります。このような中でも、経営規模の小さな農家が規模農家と同じような設備投資を行い、その借入金返済に苦しんでいる状況も数多く見受けられます。当町の大総地区は、全国的にも良質米の生産地として有名ですが、ここでも経営主の高齢化や後継者不足など、他の地域と同じような問題を抱えています。そこで、将来の農業経営をふまえて、機械の共同化、労力の省力化等を図るため、JA山武郡市が事業主体となって「おふさみのりの蔵」という名称のライスセンターを建設することになりました。

事業の目的

- ①米生産の低コスト化の推進。
- ②後継者のいない農家水田の有効活用。
- ③分散ほ場の集団化。
- ④農作業受託経営による規模の

拡大。⑤生産集団、中核農家の育成等。

自然の美味を大切にする DAG自然乾燥システム

「おふさみのりの蔵」で導入するDAG自然乾燥システムは、従来のような火力乾燥ではなく、一定湿度の空気を貯溜ビン内に送り、常温のまま水分を除去する新しいタイプの乾燥システムです。

施設の概要

- ・設備能力 1時間当たり20t (1系列2ホッパータイプ)
- ・乾燥方法 常温除湿乾燥方式
- ・設備能力 50t×21ビン
- ・穀摺り 全自動プラント 4.5t/H
- ・自動自主検査装置 1台
- ・データ処理 コンピューター 1台

取り扱い要領

- ・処理面積 150ha
- ・荷受け期間 8月下旬～9月
- ・仕上げ水分 15.0%
- ・取り扱い品種 コシヒカリ、ひとめぼれ、初星、ふさおとめ
- ・取り扱い処理数量 13,000俵
- ・荷受け量 平均73.4t/日 最大91.7t/日
- ・荷受け時間 通常8時間 最大10時間

※対象地域は大総全地区で、平成10年度の利用料金は、60kg当たり1,500円の予定です。



念願のライスセンター建設を前に行われた起工式